

## 令和7年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	225	54	49	7.4	11.5
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	494
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

### 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	223	67.8	55.0	57.0	49.1	65.9	4.6	5.5	11.3	9.7	4.0
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 文の里中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「読むこと」の領域において、平均正答率が全国・大阪市を上回っている。これは授業等を通じて読書活動を推進する中で、本に親しむ生徒が増加したことが一因と考えられる。しかし「書くこと」の領域において、平均正答率が全国・大阪市を下回っている。同じく無解答率も全国・大阪市よりも高い点が今後の課題である。

<数学>

「図形」及び「データの活用」の領域において、平均正答率が全国・大阪市を上回っている。これは授業等でICT機器を活用することで試行が容易となり、図形やデータへの理解が進み、探究活動が活発になったことが要因と考えられる。しかし多くの記述式の問題について、無解答率が全国平均を上回っている点が今後の課題である。

<理科>

全国・大阪市と比較して、IRTバンド5・4の割合が高い。しかし、反面IRTバンド2の割合も高い。また、記述式の問題については、国語・数学と同じく、平均正答率が全国・大阪市を下回っていて、無解答率が全国・大阪市を上回っている問題が多いことが今後の課題である。

教科を問わず記述式の問題に対する苦手意識が強くあるため、克服するための取り組みが必要である。

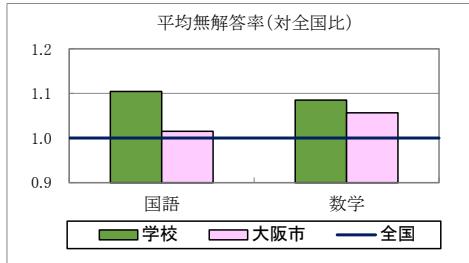
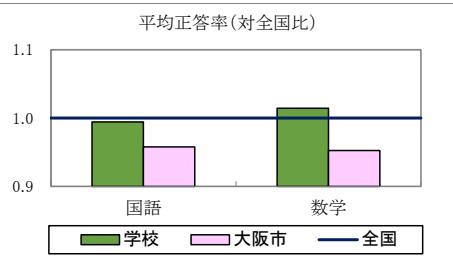
令和7年度 文の里中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	54	49
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

平均無解答率(%)		
国語	数学	
7.4	11.5	
6.8	11.2	
6.7	10.6	

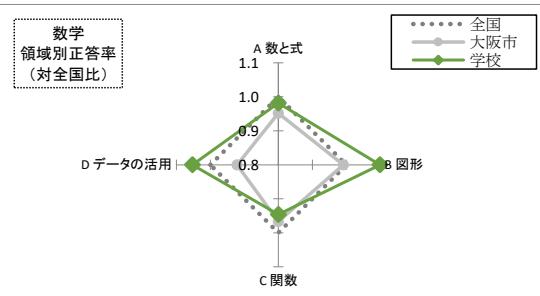
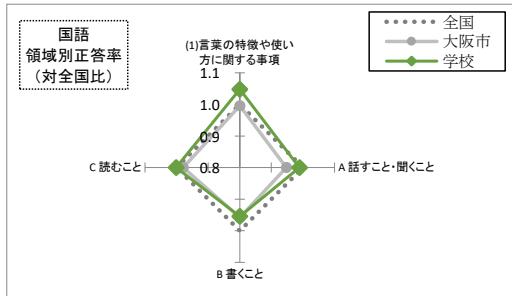
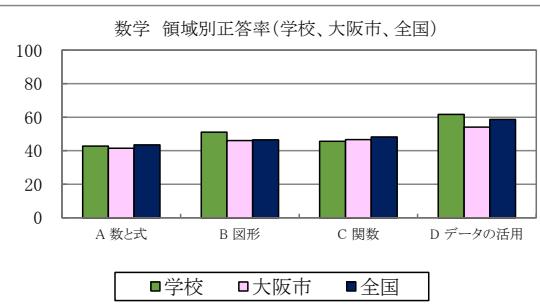
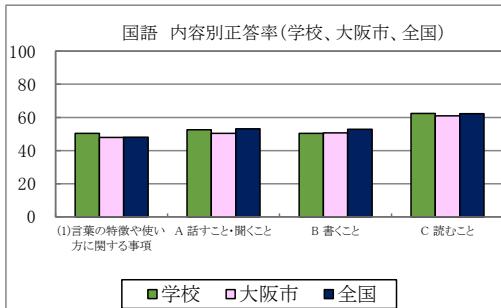


【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	50.4	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	52.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	50.4	50.6	52.8
C 読むこと	3	62.4	61.0	62.3

【数 学】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	42.7	41.4	43.5
B 図形	4	51.1	46.1	46.5
C 関数	3	45.6	46.6	48.2
D データの活用	3	61.7	54.0	58.6

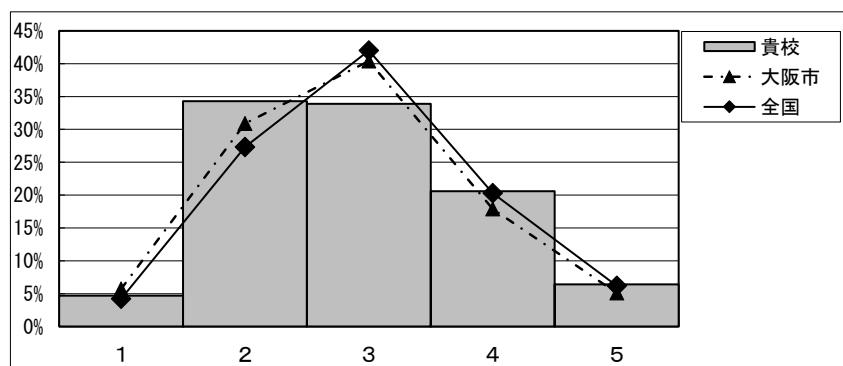
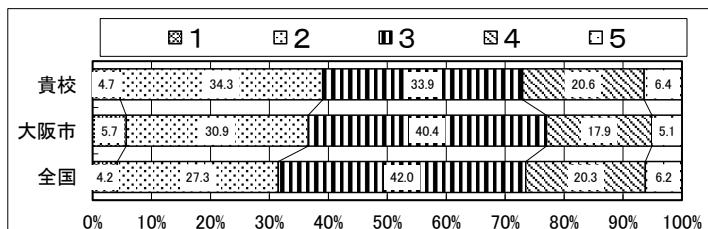


令和7年度 文の里中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	494
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

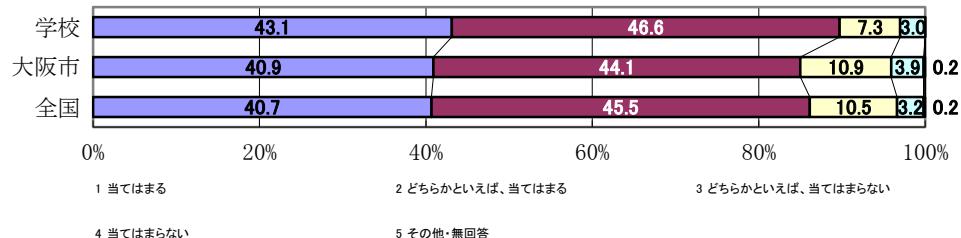
## 生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

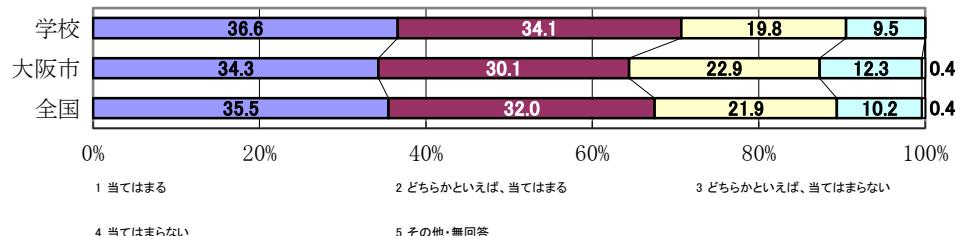
5

自分には、よいところがあると思いますか



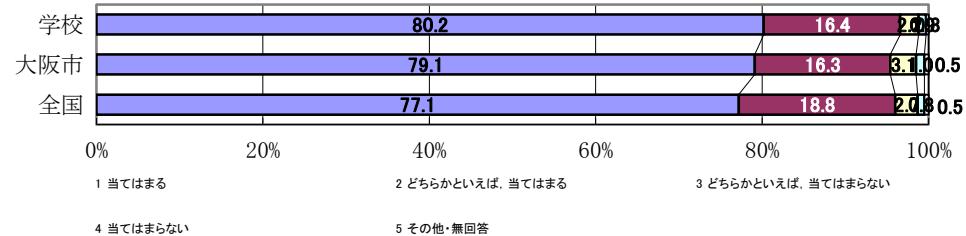
7

将来の夢や目標を持っていますか



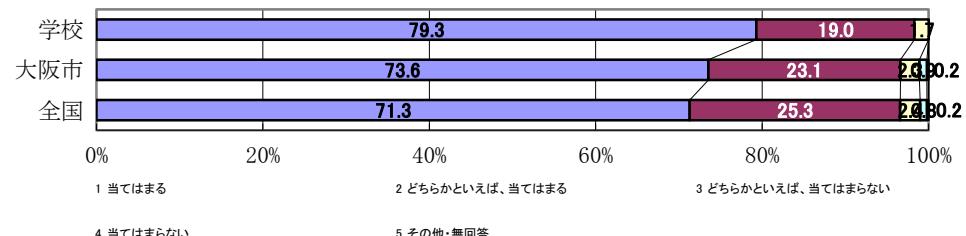
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



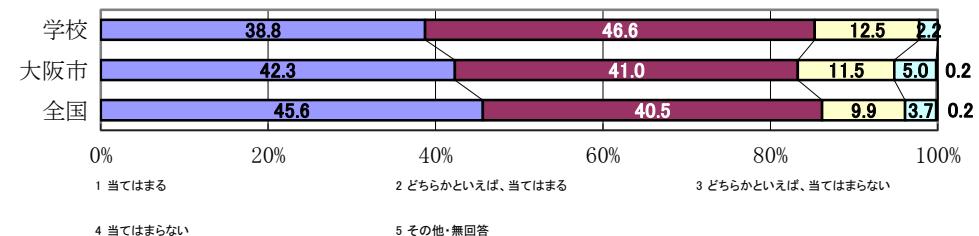
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか



## 令和7年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

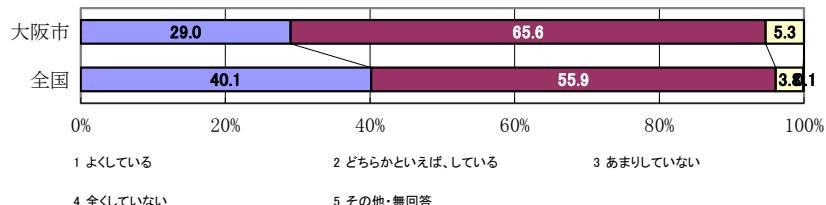
### 学校質問より

■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号	
質問事項	
<b>15</b>	

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

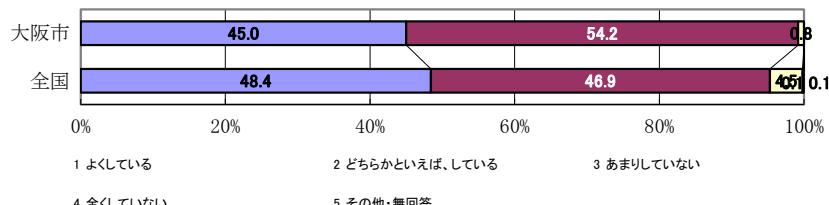
#### 学校 「よくしている」を選択



質問番号	
質問事項	
<b>18</b>	

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

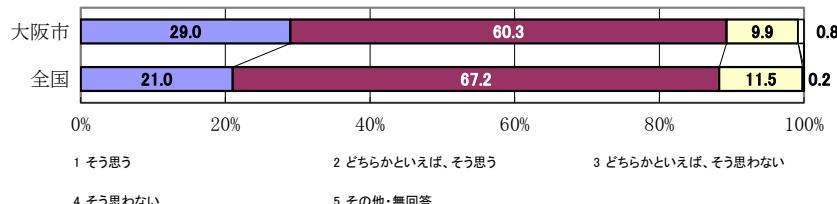
#### 学校 「よくしている」を選択



質問番号	
質問事項	
<b>25</b>	

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

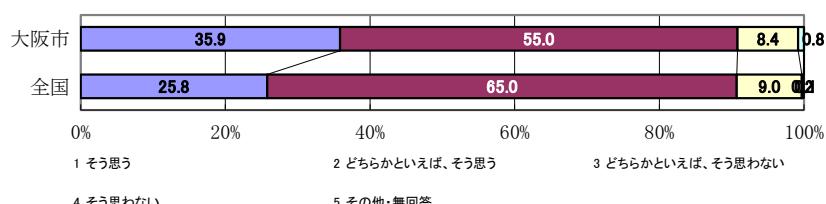
#### 学校 「そう思う」を選択



質問番号	
質問事項	
<b>27</b>	

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

#### 学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



質問番号	
質問事項	
<b>39</b>	

調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

#### 学校 「よくしている」を選択

